

フレッシュャーズゼミ A		演習	准教授 古川 慎太郎	
科目カテゴリー	救急救命士コースの必修科目		科目ナンバリング	13130101

### 1. テーマ

救急医療、救急・救助、災害対応、その他救急救命士にかかわりのある幅広いテーマを取り扱う。

### 2. 授業のねらい・概要

このゼミでは、学生と教員が双方向の議論を通じて卒業後のキャリアビジョンを共に探求し、卒業後の社会生活に向けた準備を進めることを目的とする。救急救命士として社会で活躍するためには、救急活動に関する専門的技術力のみならず、高い人間性、論理的思考能力、コミュニケーションスキル等が不可欠である。本授業では、これらの能力の醸成を図るとともに、救急救命士免許取得に向けた基礎知識の習得にも焦点を当てる。

### 3. ゼミ計画

1. ガイダンス、自己紹介、規律訓練	9. キャリアナビ⑤ (面談：学生約 10 人)
2. キャリアナビ①, 大学生活について、消防とは…	10. キャリアナビ⑥ (面談：学生約 10 人)
3. 体力錬成	11. プレゼンテーションの重要性
4. 体力錬成	12. グループワークとプレゼンテーションの方法
5. キャリアナビ② (面談：学生約 10 人)	13. グループ討議① (課題検討)
6. キャリアナビ③ (面談：学生約 10 人)	14. グループ討議② (発表準備)
7. キャリアナビ④ (面談：学生約 10 人)	15. 検討結果発表
8. 中間試験	

### 5. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習に、週 7 時間以上を要する。また、第 15 回のゼミで行う「検討結果発表」に向けた諸準備に相当の時間を要する。

### 6. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により、個別または授業中の講義を通じて行う。

### 6. ゼミにおける学修の到達目標

救急救命士としてのキャリアデザインを考え、将来の目標を明確化する。また、救急救命士国家試験受験に向けた基礎を築く。

### 7. 成績評価の方法・基準

指定された課題を、提出期限までに提出できない場合には、単位不認定とする。

ゼミへの取り組み姿勢 (20%)、小テスト・試験の結果 (80%) により成績評価を行う。

### 8. テキスト・参考文献

改訂第 11 版救急救命士標準テキスト

「119 STORY」 澤田祐介 (著) 荘道社

適宜指定する資料

### 9. 受講上の留意事項

3 分の 1 を超える欠席をした場合は不合格とする。また、取り組み姿勢が著しく消極的であると認められた場合は教員が注意を行い、これを是正しない場合は、退室を命じ当該授業を欠席扱いとする。

**10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無**

該当する。本授業は、公的機関等での実務経験を活かして指導する。

**11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

コンピュータリテラシA		実習	複数教員	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 教職科目 柔道整復師コースの必修科目 教職科目 救急救命士コースの必修科目 教職科目		科目ナンバリング	11120101 11510108 12120101 12510108 13120101 13510108

### 1. 授業のねらい・概要

大学生及び社会人としての活動においてコンピュータおよびインターネットの活用は不可欠と言える。これらを効果的に利用するのに必要な基本的能力の育成を目標として、パーソナルコンピュータの基本操作、インターネット(WEB や電子メール)の活用、ソフトウェアを使用した見やすい文書(レポートや報告書)作成技術を学修する。

各科目の履修において必要となるオンライン学習補助ツール、電子メールの受信・送信・ファイル添付等の基本操作についても繰り返し指導する。

### 2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った演習形式を基本とする。必要に応じ成果物提出も課すことにする。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス・各種サービスログイン, 授業準備	9. 表操作
2. 基本的な操作	10. 表編集
3. タッチタイピングと様々な文字入力	11. 計算式, 共同作業
4. 範囲指定, コピー/切り取りと貼り付け	12. 差し込み文書
5. 文書を装飾する	13. ワードアートと図形
6. 社内文書, 社外文書	14. スマートアートと画像, グラフ
7. ページの設定	15. アウトライン他、まとめ及び模擬試験
8. 表現を整える	

### 4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、教科書や配布物/プリント/Web に公開された情報等を用い復習しておく。なお、これらの準備学修には、2時間以上が必要である。

### 5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の練習問題に関しては時間内に説明を行う。必要なら講義終了後に個別に対応を行う。

事前に模擬試験等を実施し、解答例から出題意図や確認事項等を説明する。

### 6. 授業における学修の到達目標

パーソナルコンピュータの基本操作を理解し、要求される文書の作成はもとより、ファイルの管理(フォルダや作成済ファイルの扱い、圧縮ファイルや変名)、ファイルを添付した電子メールの送受信を行うことができる。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢(50%[提出課題等を含む])及び定期試験の結果(50%)を基本とし、総合的に評価する。

### 8. テキスト・参考文献

『繰り返して慣れる!完全マスターWord Office365・Office2019 対応』noa 出版 を使用する。毎回の授業に必ず持参す

ること。

**9. 受講上の留意事項**

疑問や不明な点については、遠慮なく質問してもらいたい。

**10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

**11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ概論①②		講義	教授 小笠原 正志	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、 スポーツトレーナーコースの必修科目 教職科目 柔道整復師コースの必修科目 教職科目 救急救命士コースの必修科目 教職科目	科目ナンバリング	11120107	11531110
			12120104	12531110
			13120103	13531110

### 1. 授業のねらい・概要

古来よりスポーツは人生を豊かにさせる「遊び」として生活に溶け込んできた。人生 100 年時代となった現代社会において、スポーツは、長い人生を元気に楽しく過ごす生活ツールとしての比重が増し、その価値が高まっている。私たち一人ひとはスポーツを形づくり（スポーツへの社会化）、スポーツは私たち一人ひとりを形づくる（スポーツの社会化）。政治・戦争・経済・宗教・人権問題・ドーピングなど、さまざまな矛盾を抱えた社会のなかでスポーツがこれまで歩んできたプロセスを学ぶことは、これからのスポーツと人間とのより良い関係性を論じる上で欠くことができないであろう。そこで、本講義では、主に近代オリンピックを題材として、スポーツの発展過程を社会の歴史的变化と絡めてスポーツの持つ役割や意味を理解し、スポーツを幅広く学習する。

### 2. 授業の進め方

スポーツの起源や概念を理解し、スポーツについてより深く学習する。関連のテキスト・資料を用いて、スポーツを広く様々な視点から捉えるとともに、必要に応じて映像を使用し、テーマに沿ったディスカッションなどを交えながら講義を進めていく。また、各回に行う課題の実施により、講義の理解度を確認しながら展開していく。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス、講義の概要 スポーツの概念	9. 戦前のオリンピックにおける日本の活躍
2. イギリス発祥の近代スポーツの起源とその発展	10. 戦後のオリンピックとオリンピック東京招致
3. フットボールから派生したサッカー・ラグビー	11. 高度経済成長と 1964 東京オリンピック
4. アメリカ発祥の近代スポーツの起源とその発展	12. 近代オリンピックの抱える矛盾 (人権問題・テロリズム・肥大化・ボイコット)
5. 日本古来のスポーツと近代化	13. オリンピックの商業化 (1984 ロス五輪)
6. 日本の近代スポーツの普及	14. 近代オリンピックの発展
7. 古代オリンピック	15. 講義のまとめ
8. オリンピックの復興と近代オリンピック	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでにテキストを活用して予習し、講義内容を復習しておくこと。これらの準備学修には、1 時間程度が必要である。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回に行う課題については数例を紹介するとともに、期末レポートについては、実施後に解答などを掲示板等に掲示する。

### 6. 授業における学修の到達目標

本講義では、現代社会におけるスポーツの在り方について学習し、スポーツの意義や文化的な価値を理解するとともに、スポーツを様々な視点から考える力を身につけることを目標とする。

### 7. 成績評価の方法・基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況 (50%)、および期末レポート (50%) により総合的に評価する。

## 8. テキスト・参考文献

小笠原正志：「健康生活とスポーツ」(SIS, 2024)

参考図書：「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 I」(財団法人 日本体育協会)

## 9. 受講上の留意事項

特になし。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、企業における実務経験を活かして指導する。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。